

校長室より

令和6年12月2日(月)

「あやまちを認める」



11月21日の熊本日新聞に『まずしくてさいせんから、ぬすみました』というタイトルの記事が掲載されていたので紹介します。

「小さいころ家がまずしくてさいせんから、ぬすみました。本当にすいません」

熊本市の戸島神社のさい銭箱から9月、過去の過ちを謝罪する手紙と現金10万円の入った封筒が見つかった。神社総代会の桂さんは「昔のことを反省して立ち直る姿を想像し、温かい気持ちになった」と頬を緩める。

総代会は日頃から神社の清掃や、さい銭箱の管理も担っている。その日は桂さんたちがさい銭の回収に訪れた際、手紙と現金10万円が入った封筒を見つけた。

桂さんはさい銭を盗むという罪の意識にさいなまれた相手の心を思いやる。「10万円は神社のために使いたい。本人にも感謝を伝えられたらいいのだが」と話し、祭りや神殿の修理に充てる考えという。

手紙には30年以上前にさい銭を盗んだことを告白した上で、ずっと後悔の念を抱いてきた思いがつづられていた。「しっかりがんばって、それ以上のお金をお返しいたします。今日、これで本当によかったです」と結ばれていた。

この盗んだ人物は貧困を理由にさい銭を盗んだと告白しています。おそらく、当時は生きることで精一杯だったのかもしれませんが。

しかし、この人物はただの犯罪者ではないようです。手紙の終わりに「しっかりがんばった」「(お金を返しに)これで本当によかった」と記されていたように、この人物はさい銭を盗んだ後も決してそのことを忘れず、30年間一生懸命働いた様子がうかがえます。

私たちも大なり小なり過ちを犯します。大切なのは、それを隠したり、嘘をついたり、人のせいにしたりすることではなく、過ちを認め、これを教訓として今後の人生に役立てることではないでしょうか。そして、周りの人たちも「大丈夫。次、がんばろう!」と声をかけてあげることも大切だと思います。